

令和7年度 学校評価報告（集計結果と考察・改善策）

【総合判定】 A(平均肯定率90%以上) B(平均肯定率80%以上) C(平均肯定率70%以上) D(平均肯定率70%未満)

【肯定率】 4段階評価の4と3の肯定的評価の割合(%)

【評定】 4:とても思う 3:やや思う 2:あまり思わない 1:全く思わない

評価領域	評価指標	総合判定	平均肯定率	対象	肯定率	評定(%)				考察と改善策
						4	3	2	1	
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルのもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	96	児童	96	70	26	3	1	「教育課程・学習指導」に関しては、昨年度とほぼ同様の肯定率となっている。また、昨年度から新しく入った「郷土を大切に思う児童の育成」も高い肯定率である。児童の実態を把握し、個に応じた学習に取り組めるようアナログとデジタルの良さを生かした学習指導の創意工夫・改善に努める。さらに人材や施設、文化等を学習材とした単元を工夫し、地域と連携して児童を育てるカリキュラムづくりを進める。
				教職員	100	37	63	0	0	
				保護者	92	18	74	7	1	
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	A	96	児童	98	71	27	2	0	
				教職員	100	37	63	0	0	
				保護者	91	20	71	9	0	
	学校は、児童の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	96	児童	98	74	25	1	1	
				教職員	100	60	40	0	0	
				保護者	90	18	72	10	0	
	学校は、地域に根差した教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	96	児童	96	69	27	4	1	
				教職員	97	68	29	3	0	
				保護者	94	36	58	6	0	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	95	児童	95	74	21	4	1	「人権・同和教育・生徒指導」に関しては、昨年度よりやや低下している。特に「学校のきまり」に関して服装や髪型等についてやや緩やかなきまりが捉え方に温度差が見られ、児童や保護者に戸惑いが見られることがあった。服装検討委員会で審議をする。また、生徒指導部会等で情報を共有し、教職員が共通理解して指導するようにする。
				教職員	100	56	44	0	0	
				保護者	91	20	71	7	2	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童の実態に応じた適切な指導や支援を行っている。	A	93	児童	94	68	26	4	2	
				教職員	97	53	44	3	0	
				保護者	88	21	67	11	1	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童を育てている。	B	89	児童	95	69	26	4	1	昨年度と同様。体験活動を見直しつつ、さらにキャリア教育の推進に向けてカリキュラムの改善を図っていく。
				教職員	93	18	75	7	0	
				保護者	79	12	67	19	2	
安全管理	学校は、児童に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	98	児童	98	80	18	2	0	安全教育は1ポイント向上。校内外の安全な過ごし方の指導や地域や保護者の見守りを今後も連携して行っていく等安全な環境づくりを継続する。
				教職員	100	56	44	0	0	
				保護者	95	28	67	5	0	

評価領域	評価指標	総合判定	平均肯定率	対象	肯定率	評価(%)				考察と改善策
						4	3	2	1	
保健管理	学校は、個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童の健康保持・増進に努めている。	A	97	児童	98	75	23	1	1	「保健管理」に関しては、1ポイント向上。引き続き換気や手指衛生、給食時のマスク着用など基本的な対策を行うとともにに感染予防のための注意喚起をメールで知らせるなどして感染症の拡大を防ぐよう努める。
				教職員	100	56	44	0	0	
				保護者	94	23	71	5	1	
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を適切に行っている。	A	96	児童	97	76	21	2	1	
				教職員	97	60	37	3	0	
				保護者	93	22	71	7	0	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって教育活動に取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	97	児童	97	75	22	2	1	「特別支援教育」は1ポイント向上。個に応じた配慮や支援を組織的に今後も継続していく。また、教育相談等を随時行い、保護者の思いを受け止めながら、児童への支援を充実させる。
				教職員	100	48	52	0	0	
				保護者	93	19	74	7	0	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	95	児童						「組織運営」に関しては、教職員の組織的な対応により、保護者との信頼関係を築けていると思われる。報道相を今後も継続し、チームとして連携する。
				教職員	100	67	33	0	0	
				保護者	89	15	74	10	1	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいる。	A	92	児童						2ポイントの低下。教職員は肯定率が高いが、保護者は「分かる授業づくり」が参観授業等で実感できないと考えられる。タブレットを積極的に活用するなど新しい教育観に基づく授業づくりに力を入れる。
				教職員	100	48	52	0	0	
				保護者	84	17	67	16	0	
保護者・地域連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	97	児童						「保護者・地域連携」は、今年度も高い肯定率である。今後も地域と保護者の連携を見直しを行いつつ、実施していく。「情報提供」に関しては、ホームページの更新をほぼ毎日行うことで、閲覧者数が増え、本校の教育活動の様子を保護者や地域の方と共有できている。継続したい。
				教職員	100	56	44	0	0	
				保護者	93	21	72	7	0	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	97	児童						
				教職員	100	60	40	0	0	
				保護者	93	26	67	7	0	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	A	96	児童						4ポイントの向上。教職員の環境プロジェクト部会が中心となり、古くなっていた掲示物を新しくしたことが環境整備の向上につながった。
				教職員	100	29	71	0	0	
				保護者	91	19	72	9	0	
幼・保・小・中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	95	児童						「幼・保・小・中連携」は、昨年度よりさらにポイントが向上している。小中連携の研究が実った結果である。今後も持続可能な実践を継続し、ギャップを生まない教育活動を定着させる。また、関係園には参観日への参加を通して、小学校での生活等への理解を促すことができた。今後も継続する。
				教職員	100	52	48	0	0	
				保護者	89	16	73	10	1	
	学校は、関係園・校で連携し、児童への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	95	児童						
				教職員	100	33	67	0	0	
				保護者	89	16	73	10	1	

評価領域	評価指標	総合判定	平均肯定率	対象	肯定率	評価(%)				考察と改善策
						4	3	2	1	
その他	お子さんは、学校に楽しく通っている。	A	93	児童	96	86	10	3	1	児童は、今年度も概ね楽しく学校に通い、学校生活において思いやりの気持ちを持って仲良く活動できている。しかし、昨年度よりポイントはやや低下しているものもある。「家庭学習の習慣」「読書」に関しては、D、「学年に応じた基本的な学力」「家の手伝いや仕事」に関しては、C評価である。「家庭学習の習慣」については、児童の評価が向上している。昨年度同様、児童は肯定率が比較的高いが、保護者との評価の差が大きい。この現状を踏まえ、家庭学習の時間や内容の把握を保護者と共有できる方法を工夫し、習慣化を図りたいと考える。「読書」においては、児童と保護者の評価の乖離が大きい。児童は学校での読書を含め、家のみで見る保護者では感覚の相違があるのかもしれない。「読書を学校や家で親しんでいるか」などに変更することを考えている。
				教職員						
				保護者	91	40	51	7	2	
	お子さんは、家庭や地域で挨拶ができる子に育っている。	B	84	児童	86	51	35	11	2	
				教職員						
				保護者	82	24	58	16	2	
	お子さんは、友達を思いやり、仲よく活動できている。	A	96	児童	97	77	20	3	1	
				教職員						
				保護者	94	27	67	6	0	
	お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。 学年×10分+10分 (例)6年生 6×10+10=70(分)	D	64	児童	84	44	40	12	4	
				教職員						
				保護者	45	12	33	42	13	
	お子さんは、学年に応じた基本的な学力が身に付いている。	C	72	児童						
				教職員						
				保護者	72	14	58	21	7	
	お子さんは、読書に親しんでいる。	D	54	児童	67	39	29	23	9	
				教職員						
				保護者	41	12	29	42	17	
	お子さんは、家の手伝いや仕事ができる子に育っている。	C	77	児童	81	46	35	14	5	
				教職員						
				保護者	72	16	56	24	4	
	学校のことについて家の人とよく話している。	B	87	児童	87	60	28	10	3	昨年度同様、学校での出来事について保護者に伝える児童が増えてきている。温かい人間関係や落ち着いた学習環境づくりによって児童が安心して通うことのできる学校と感じる高い評価に至っていると考える。今後も継続していきたい。
				教職員						
				保護者						
	堀江小学校は安心して通える学校である。	A	95	児童	95	78	17	4	1	
				教職員						
				保護者						